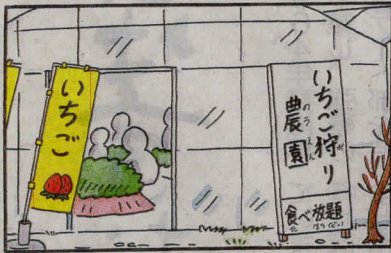


<<5734>>



若者定住モデル日本一

益子のトチギ環境未来基地

里山保全・活用に最高賞

都市と農村の交流に関する優れた取り組みを表彰する「第14回オーライ・ニッポン大賞」(農林水産省などの主催)の表彰式が3日、東京都内で開かれ、最高賞のグランプリ(内閣総理大臣賞)に益子町のNPO法人トチギ環境未来基地が選ばれた。若者が集団生活を送りながら里山の環境保全に取り組む活動が「農山村に若者が定住して活躍できるモデルになる」などと高い評価を受けた。

同大賞事務局によると、今回は全国から89件の応募があった。本県からのグランプリは初めて。

トチギ環境未来基地は2009年、「長期滞在型の環境保全プログラム」をスタート。参加者は3カ月間、同法人事務局の古民家で共同生活し、県内7カ所の里山で木の伐採や遊歩道の整備などに当たる。

塚本竜也理事長(40)は大学卒業後、米国で同様のプログラムを体験し、国内でも少子高齢化で管理できなくなった里山があるのに着目。「若者のアイデアで、時代に合った里山の利用価値を見いだそう」とプログラムを始めた。



竹林の間伐作業に汗を流すプログラム参加者の若者たち＝茂木町内(トチギ環境未来基地提供)

これまでに国内外の18〜35歳の若者61人が参加。里山ごとに「子どもたちが遊べる森」「福祉・交流の森」などのテーマを設定し、遊び場や遊歩道などを造るほか、若者自ら企画した体験イベントも開いている。

プログラムを通じ、参加者6人が県内に移住した。塚本理事長は「結果として都市と農村の交流につながった。(受賞で)新たな協力の輪が広がれば」と話している。

(石井賢俊)